

「He is RISEN 神の国の再建」

ネヘミヤ1章1節～9節 2章1節～9節

預言者の一人ネヘミヤはアルタシャスタ王の献酌官、つまり側近として雇用されており、王の酒の毒見役でした。バビロンという国はイスラエルから攻撃を受けて、ネヘミヤはその捕囚の民だったのに、王の側近として非常に信頼されていたのです。そんな時、自分の親類のハナニが彼のもとにやってきて、「私たちの祖国は大変なことになっている、捕囚から逃れて残った者たちは困難の中にいる。また、城壁は崩され、その町は見る影もなく荒れ果てている。」と言います。ネヘミヤは、数日間泣いて、喪に服し、断食して神様に祈りました。

彼は今まで王の前で一度もしおれたことはありませんでした。奴隷として連れてこられた時もしおれなかったネヘミヤが、自分の祖国が荒れ果てているということを聞いたこの時一度だけ王の前でおられたのです。王は、ネヘミヤが悲しい顔つきをして元気がないのを見て、なぜかと聞かれました。ネヘミヤは祖国が廃墟になり、焼き尽くされていることを王に話すと、王は、あなたはどうしたいのかと聞かれました。すると、ネヘミヤはまず天の神に祈ってから、祖国を再建させてほしいと願いました。王はどのくらいかかるのか、いつ戻ってくるのかを尋ねられ、ネヘミヤがそれを答えると快く彼を送り出してくれました。ネヘミヤが願った、ユダまでの道を通らせてもらうための番人と総督への手紙や、城壁を直すための材木まで与えてほしいと願ったところ、王は叶えてくれました。彼は人格者としてきちんとしていたからこんなに願うことができたのです。聖書の人物は、特別だからできたわけではありません。彼は、決断し、自分の心を治め、これは神の計画だと信じたのです。王は将校たちと騎兵たちをネヘミヤにつけてくれました。ネヘミヤがなぜこんなに王に信頼されていたのか、それは、彼が神様から信頼されていたからなのです。

■ 神の国の再建

一人の人に与えられた志が、世界を、国家を、社会を、現実を変えることができます。だから生き方を変えることができます。あなたがとった行動で社会が変わるのです。神様は何かを壊そうとする人がいれば、必ずそれを直そうとするものを起こします。神様はあまねく全地を見渡してご自分の心と一つになるものを探していて、その人にみ力をあらわすのです。ネヘミヤ記3章はどうなっていくでしょう。それぞれ誰がどこを修復したか細かく書かれています。一人一人が置かれた場所を修復し、城壁を再建していきました。

■ 神様の志をはぐくむ祈りの備えと知恵

あなたには知恵がありますか。新しいことをしようとするとき反発を受けてしまいます。4章には、ネヘミヤが王に反逆してこの国を滅ぼそうとしていると密告する人が出てきました。彼はその時、感情的にならず知恵をもって祈りました。神様の計画は妨害があります。正しいことをしようとするとき、多くの知識による反発が起きます。あなたは何か疑問を感じたら祈ってください。知恵は知識と違って、私たちの多くの人が取る行動とは違います。ネヘミヤは、その知恵ある行動によって、自らの国を再建していく一人の人になりました。エステルも、エズラも、知恵によって何かをし続けた人です。

■ 正しい言葉

言葉は生きています。あなたの言った通りになります。あなたが誰かと一緒になって悪いことをもし言っているなら、あなたの環境はどんどん悪くなっていきます。言葉は大きな影響があるのです。ネルソンマンデラは、あの長い歴史でアパルトヘイトというアフリカで黒人を差別されてきた状況を、愛と言葉と行動によって変えていきました。そしていつも賛美していま

した。私たちは魂の管理者であることを守らなければなりません。私たちの心が管理されていないと、あなたがよいことをやっても無駄になってしまうのです。

■ 妨害のための備え

何かをしようとするとき必ず問題が起こります。そんな時不安になったり腹が立ったりしますが、ネヘミヤは神様の前に祈ることで、平安を保ったのです。平安と聖霊の実は、愛から始まります。喜び・平安・寛容・親切・善意・誠実・柔和・自省。これらが心にならなければ何か起こったときに平安でいられないのです。その中でも最大の武器は「愛」です。

「ですから私たちは勇気を失いません。たとえ私たちの祖となる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。今の時の軽い患難は、私たちのうちに働いて、計り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは、一時的であり見えないものはいつまでも続くからです。」第二コリント4章16節～18節

私たちは見えないところに目を止めて、大事なものは何かを見続けなければなりません。だから、言葉に気をつけてあなたが目に見えるもので右往左往させられないで、神様の計画があるのではないかと祈りましょう。そこで神様がいけないことだと言われたなら、最善を尽くし、改善すればいいのです。ネヘミヤ記1章～9節まで、ネヘミヤがどのように祈ったかを覚えてください。あなたには、修復する場所があります。その場所に出て行ってその城壁を直さないと、そこから悪いものが入ってきます。心の壁をしっかりと築いて、あなたが聞くべき人の声をしっかりと聞かなくてはなりません。

■ さいごに

クリスマス・キャロルをかいたチャールズ・ディケンズはひどい家庭環境の中でしたが、ある人に出会って人生を変えられていきます。神様はどんな状況でも見ていてあなたの人生に寄り添おうと、助けの手を差し伸べる友を与えてくれるのです。どんな境遇の中にあっても自分の置かれた状況の中で元気を失って倒れてはいけません。ネヘミヤはそれをしなかったからチャンスが来た時に自分の国を、民族を取り戻すことに成功しました。自分の人生が閉ざされた時、信仰に立って正しい決断をするなら、やってきたことは無駄にはなりません。時代の先駆者たちは命をかけて、神が立てた権威に従うという決断をして、その場所で自ら咲きました。荒れた廃墟を立て直し、神様の国を、自らの家を、人生を再建し、魂の管理者として神の前に祈り、すべての悪に備え平安で愛を流す者となりますように。

(要約者: 浅野 恵子)

(2024年4月21日)